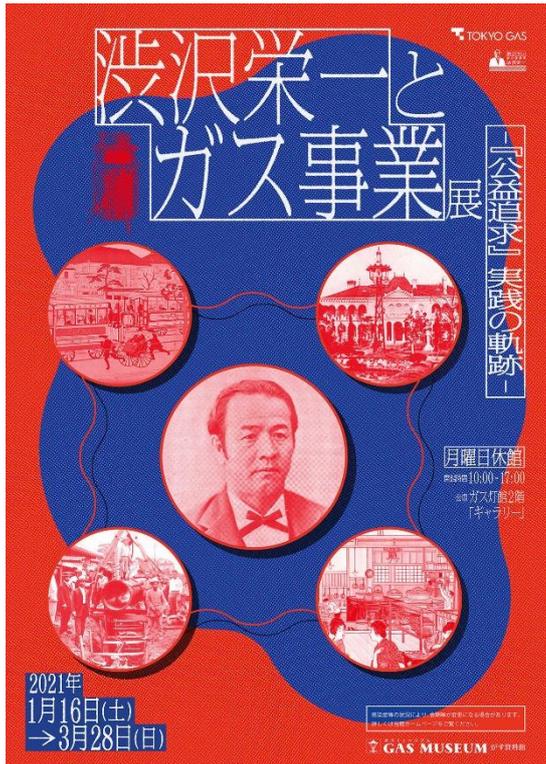


ガスミュージアム 「渋沢栄一とガス事業」展開催 ～『公益追求』実践の軌跡～

東京ガスは、2020年に創立135周年を迎えました。この節目にあたり、東京ガスの創設者である渋沢栄一とガス事業に関する企画展を東京都小平市のガスミュージアムにおいて、2021年1月16日(土)から3月28日(日)まで開催します。



「日本資本主義の父」と言われ、2024年上半期をめどに発行される新1万円札の顔に決まった実業家・渋沢栄一。2021年2月スタートのNHK大河ドラマ「青天を衝(つ)け」の主人公としても話題です。渋沢栄一は、明治から大正期に多くの企業・事業を立ち上げました。その1つが東京ガスです。

渋沢栄一は、1867年(慶応3)に渡欧し、近代都市の象徴としてパリの街を輝かせていたガス燈の灯に出会い、深く感銘を受けました。

帰国後、大蔵官僚を辞して民間の立場となり、1874年(明治7)に東京ではじめてのガス事業に携わると、1876年(明治9)からは東京府ガス局長として事業の健全化に務めました。

事業改善の見通しが立った1885年(明治18)民営化により東京瓦斯会社が設立された際には、創業時の最高責任者(委員長)に就任。以来1909年(明治42)に取締役会長を退任するまで、35年の長きに渡り、東京のガス事業を通して社会と暮らしの発展を推し進めました。

公益追求の信念を貫き社会の発展と企業の発展を両輪に、渋沢栄一の思い描いた近代都市の姿とガス事業の関わりを、貴重な写真やさまざまな書籍の他、渋沢邸(東京都北区)に設置されていた実際のガス燈頭部などの展示史料から以下の4つのエピソードを中心にご紹介いたします。

- 1(夜を明るく):東京の街に文明開化の明かりを灯すガス灯事業の創生
- 2(商いを明るく):室内照明の需要開拓で黒字転換しガス民営化(東京瓦斯会社創立)
- 3(都市の経済を力強く):都市経済の発展をエネルギーインフラ増強と新技術利用で後押し
- 4(暮らしを豊かに):一般家庭向けに新たな生活価値を創出した国産ガス機器の投入



【お問い合わせ先】 GAS MUSEUM がす資料館

ホームページ:<https://www.gasmuseum.jp/>

住所:〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25

TEL:042-342-1715/FAX:042-342-8057(月曜日を除く10:00~17:00)

